

三者共同広報企画 『法曹という仕事』

令和3年8月17日、最高裁、法務省、日弁連の法曹三者による広報企画「法曹という仕事」を実施しました。

この企画は、全国の高校生を対象に、司法を身近に感じてもらい、法曹という仕事の魅力ややりがいを紹介するイベントです。令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせましたが、令和3年はオンライン形式で開催し、全国から多くの高校生に参加していただきました。ここでは、企画の内容を少しだけご紹介します。



法律家は堂々と正義を語ることのできる仕事

冒頭は、岡村和美最高裁判事の講演から始まりました。岡村判事は、「法を学ぶということは、六法全書を丸暗記することではありません。紛争の解決や社会のルールに関する仕事をするためには、バランスのとれた公平な判断ができなければなりません。そのために何が必要かといえば、日ごろから社会に関心を持ち、広い視野を持って情報を正しく収集・分析した上で、自分でよく考える。その積み重ねが大切なのです。」と高校生の皆さんに語りかけました。

さらに、「誰もが平等に、尊重され、人間らしく生きることができる社会のために、法律家は、照れたり恥ずかしがったりすることなく、堂々と正義を語ることのできる仕事です。次代を担う皆さんの情熱とチャレンジに大変期待しています。」と、熱いメッセージを送りました。

☆岡村判事の講話は、裁判所ウェブサイト動画に掲載しています（二次元コードは右下）。



参加者に語りかける岡村和美最高裁判事

法曹三者がそれぞれの仕事の魅力を紹介

裁判官、検察官、弁護士が、それぞれオンライン上のグループに分かれ、自分たちの仕事について紹介しました。高校生の皆さんには、各グループを自由に行き来し、興味のあるグループの話聞いてもらいました。

裁判所グループでは、裁判官だけでなく、一緒に働く家庭裁判所調査官や裁判所書記官も参加し、裁判所での日常や仕事のやりがいを話しました。なぜ裁判所で働こうと思ったのか、実際に働いてみて裁判所がどんな職場なのか等、高校生の皆さんからの質問に答えながら、これから進路を考える高校生の皆さんが、裁判所の仕事に興味をもってもらえるよう、裁判所の魅力を存分にお伝えしました。



家入美香裁判官



一社紀行裁判官



重田知恵美
家庭裁判所調査官



小路口美奈子
裁判所書記官

法曹三者が刑事裁判を生解説！

NHK Eテレの昔話法廷「白雪姫」を題材に現役の法曹三者が模擬裁判を生解説！検察官や弁護士の狙いや手続のポイント等、リアルな裁判をお伝えしました。ここでは、実際の解説の様子を、少しのぞいてみましょう。



法服を着て解説する裁判官

異議あり！

- 検察官** 検察官がここで異議を出したのは、弁護人の質問が争点とは関係のない質問だったからです。あと、白雪姫に対する侮辱的な要素もあるように思いますね。
- 弁護士** 弁護人としては、検察官が犯人は王妃であることを前提に質問していることに異議を述べると思います。犯人が王妃かどうか問題になっているので、『王妃』を主語にした質問は、間違っただけで印象を与えかねない質問ですね。
- 裁判官** 尋問の仕方にもルールがあって、関連性のない質問や侮辱的・威圧的な質問、前提が間違っている質問も誤った答えを誘発するためできません。また、言わせたい答えを暗示するような質問も制限されます。これらは真実に近づくための工夫の一つです。

尋問のテクニック

- 裁判官** ここで、先ほどの弁護人の伏線が回収されたのではないですか。
- 弁護士** はい。弁護人は、ここで白雪姫の嘘を暴きました。先ほどわざと大げさな聞き方をしていたのは、嘘がばれる瞬間のインパクトを持たせたかったんですね。あの聞き方は上手でしたね。

必要な捜査は？

- 検察官** 私がこの事件の担当検事だったら、リンゴを押収して、毒物を調べますね。
- 裁判官** 人の話には、勘違いや嘘があるので、指紋や毒物などの手堅い客観証拠を手掛かりに考えることが重要ですね。

さらに、参加した高校生の皆さんから、チャット機能を使って法曹三者に質問タイム！

Q 王妃が、リンゴの話題だけ黙秘することはできますか。

A できます。刑事裁判のルールに基づけば、黙秘しても不利に扱われません。

ただ、説明して理解してもらった方が有益になることもありますよ。

いかがでしょうか。こんなふうにご解説を少しのぞくだけでも裁判に興味が出てきませんか。参加した多くの高校生の皆さんからも、大好評でした。今年もオンラインでの開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

幕間では、最高裁判所の大法廷を動画で紹介！大法廷の重厚な雰囲気を感じてもらいました。

この紹介動画は、裁判所ウェブサイトにも掲載していますので、ぜひご覧ください！

直接会って気軽にお話ししているような感覚で楽しく参加することができました。

法曹という仕事の意義や責任感を強く感じ、法曹の重要性を感じました。

参加者の感想

岡村判事の言葉は重みがあり、最高裁判事のすごさをあらためて認識しました。

今まで知らなかった書記官や調査官の仕事も知ることができて、とても参考になりました。

昔話法廷の解説がすごく詳しく、さすがプロの視点だな、と感動しました。

この企画の実施結果は、ウェブサイトにも掲載しています。

